

[人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について (中央教育審議会答申)]

地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター的役割、地域防災拠点

- ・ 住民が主体的に地域課題を解決するために必要な学習の推進。
- ・ 学習成果を地域課題解決のための実際の活動につなげていく役割。
- ・ 地域学校協働活動の拠点としての役割。
- ・ 外国人が地域に参画していくための学びの場としての活用。

答申を受け公民館の
あり方を見直す時期
に来ている

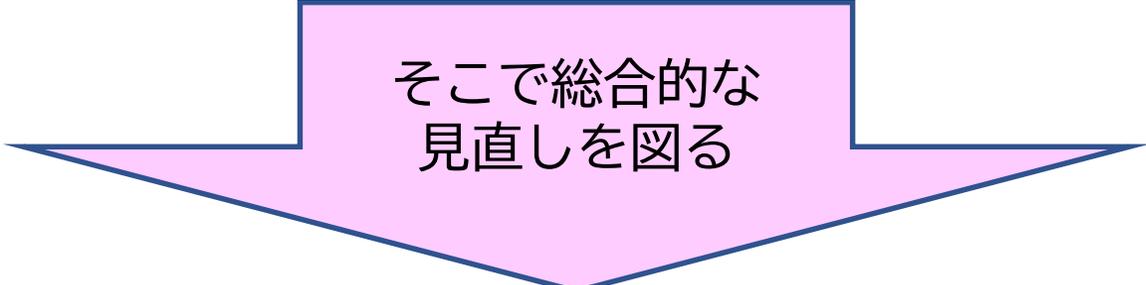
第1次実施計画及び第6次生涯学習推進計画に位置づけ 【公民館の機能拡充】

- ・ 地域の社会教育活動の活性化を図るため、公民館における社会教育主事有資格者の配置やオンラインを活用した主催講座を充実。
- ・ 公民館をより身近な地域活動拠点にするため、地域課題の解決に資する講座を開催するとともに、その成果が地域に還元される仕組みづくりの推進。

今後の公民館に求められる役割

これからは

☆公民館の設置及び運営に関する方向性を見直し、ソフト面の弾力化、施設の強化を図ることで公民館活動の振興と充実を図ることとしたい



そこで総合的な
見直しを図る

➤ 公民館の機能強化

- 1 地域拠点としての役割
- 2 防災拠点としての役割
- 3 老朽化対策

地域拠点としての役割 (市民同士の繋がりが大切)

(1) つどう場

- ・ 地域開放 (特に子どもを巻き込む事業の強化)

子育て世代、子どもの居場所づくりとしての公民館開放 (優先予約)
(例：地域食堂、子育ておしゃべりタイム、自習室など)

(2) まなぶ場

- ・ 地域生活に根差す学び (講座の拡充)

地域連携による地域課題の把握、解決のための講座開催 (社会教育主事の更なる活用)
地域の特色に応じた講座の開催

※モデル事業：出張公民館 (宮崎公民館)

(3) むすぶ場

- ・ 地域連携による広聴機能の強化 (相談支援体制の構築)

生涯学習センター学習相談員、区役所や地域団体との連携

※モデル事業：相談情報コーナーの設置 (幸町公民館)

これまでも各公民館で実施している事業が多いが、見える化させることが重要。公民館職員の意識強化にもつながる。
今後は市民に対して公民館がどう変わっていくのかを周知していく。

地域拠点としての役割強化 モデル事業①

市が実施している各種相談業務の情報発信（幸町公民館）

令和5年3月に第6次生涯学習推進計画を策定した際に市民アンケートを実施したところ、70代の31%、80代の44%がインターネットを利用しないと回答があった。



インターネットだけでは、困っている市民への情報がつたわらない。



公民館が「むすぶ場」として、市の各種相談窓口と受付内容がわかる情報を発信しているが、地域住民に知られていない。そこで、周知方法を検討し、孤立している市民が公民館に来館することで、地域拠点としての役割を果たすことを目指す。

地域拠点としての役割強化 モデル事業②

出張公民館（宮崎公民館）

令和5年3月に第6次生涯学習推進計画を策定した際に市民アンケートを実施したところ、利用する理由として「自宅から近い」が約64%であった。



公民館が自宅から遠い方の利用率は低い可能性がある。



公民館が「まなぶ場」として、自治会館などに出向いて市民ニーズに応じた講座を実施することで、地域コミュニティの核となることが期待される。

老朽化対策

(1) 現状

- ・ 47公民館、15図書館、生涯学習センター及び南部青少年センターの社会教育施設は、全体の4割近くが築40年以上を経過。
- ・ 耐用年数を超過している施設もあるため、早急に再整備に取り組めるような計画策定が必須。

(2) 今後の対応

ア 地域拠点施設としての**避難所機能の維持**

- ・ 地震や台風などの自然災害の指定避難所や火災等罹災者の受け入れなど、地域の防災拠点としても位置づけられていることから、

イ **施設の複合化による改修**

- ・ 周辺老朽化公共施設の洗出しと複合化の検討。利用状況を検証し、施設をコンパクト化。
➡ 新設等の優先順位の決定 ➡上位を絞り込み実施計画を作成し予算化

※地域住民にとって最も身近な地域拠点として、図書館、いきいきセンター、市民センター、学校等との複合化、予約本自動貸出機や証明書自動交付機の設置等を検討。

(財源の確保も検討)